



鹿児島県立加治木高等学校 創立130周年記念事業



募 金 趣 意 書

令和7年11月11日



加治木高等学校
創立百三十周年記念
実行委員長 末永 豊邦

加治木高等学校は、このたび創立百三十周年という記念すべき節目を迎えることとなりました。これは、明治の創立以来、地域社会の温かいご理解とご協力、そして同窓生一人ひとりの力強いご支援があつてこそ、この賜物であり、ここに心より厚く御礼申し上げます。母校が歩んできた歴史の重みと、多くの先輩方のご尽力に深い敬意を表する次第です。

私たち同窓会は、創立百三十周年記念事業を契機として、海外短期研修や国内派遣、さらには奨学金事業を継続的に展開してまいりました。これらの取り組みは、在校生が広い視野を持ち、豊かな人間性を育み、未来へと大きく羽ばたくための礎となっております。実際に、海外研修に参加した卒業生の中には、異文化体験を通して教育への志を強くし、教師となつて母校に戻り、今度は後輩たちを導いている方もおられます。このように「支えの連鎖」が確かに息づいていることは、同窓会活動の大きな成果であり、寄せられたご厚情の結実であると強く実感しております。

百三十周年を迎えるにあたり、私たちはこれまで以上に心を一つにし、母校のさらなる発展と後輩たちの成長を力強く応援していく決意を新たにしております。輝かしい伝統を受け継ぎながらも、新しい時代にふさわしい挑戦を後押しし、母校が地域とともに未来へ羽ばたいていけるよう、同窓会一丸となつて取り組んでまいります。

どうか皆さまにおかれましても、この趣旨にご賛同いただき、引き続き変わらぬご理解と温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



鹿児島県立加治木高等学校
校長 宇都 尚美

本校は明治三十年の創立以来、地域とともに歩み、幾多の困難を乗り越えながら、令和九年に百三十周年という大きな節目を迎えることとなりました。この長い歴史は、卒業生をはじめ、保護者ならびに地域の皆様の温かいご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

現在、加治木高校では、「清心澹刺・質朴剛毅・堅忍不拔」の校是のもと、自らの意思で未来を切り拓き、変化と困難に満ちた社会をしなやかに、かつ力強く生き抜く人材の育成に日々力を尽くしております。文武両道を尊ぶ校風は今も昔も変わりません。互いに学び合い励まし合う環境の中で、先輩から後輩へと「学びの襷」が確かに受け継がれ、生徒一人ひとりが自らの進路を切り拓いています。

同窓会の皆様のご支援により実施されている「先輩が後輩に贈る龍門講座」や「国内派遣事業（龍門の襷）」、「海外短期研修」は、本校の魅力ある教育活動であり、生徒にとってかけがえのない学びの機会です。社会の第一線で活躍される先輩方との出会いは、生徒自身の生き方や価値観に深く影響し、未来への視野を広げる貴重な体験となっております。海外研修においては、異文化理解や国際感覚の育成に加え、将来の進路やキャリアについて考える契機であり、後輩にも良い刺激を与えています。

このたび、同窓会の皆様が中心となり、記念事業に取り組む募金活動を展開されることに、心より敬意を表します。百三十年の歩みを振り返り、次世代へと希望をつなぐこの事業が、加治木高校のさらなる飛躍の礎となることを願ってやみません。皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

創立百三十周年 記念事業計画

一 記念行事

(一) 記念式典

亡師亡友慰霊祭

記念講演会

(二) 記念龍門祭

(三) 記念龍門講座

(四) 記念遠行

二 記念事業

(一) 育英事業の拡充

① 海外短期留学費用の旅費補助

② 国内短期研修費用の旅費補助

③ 奨学金・教育活動等の拡充

(二) 記念誌(会報誌特別号)発行



海外短期研修

今回インタビューした人

福重明日香教諭(70期)

海外短期研修の経験が、 教師になる第一歩でした



私が高校生のとき、同窓会のご支援によって実現した海外短期研修に参加させていただいたことは、人生の大きな転機となりました。初めての海外での生活や交流は、不安もありましたが、それ以上に自分の世界を大きく広げてくれる体験でした。現地の人々と英語でコミュニケーションを取り、文化の違いに戸惑いながらも、互いを理解しようとする中で、人と人との心を通わせる喜びを知りました。



自分の歩んできた道の原点には、間違いなく高校時代の海外研修の体験があり、あのとき背中を押してくれたさつた同窓会の皆さまへの感謝の思いは尽きません。もしあの研修がなければ、私は今とはまったく違う進路を歩んでいたかもしれません。海外で学んだ経験が、挑戦する勇気を与えてくれただけでなく、「教育を通して未来をつくる」という使命感を芽生えさせてくれました。今、目の前の生徒たちに新しい視野を広げる機会をつくることこそが、私にできる恩返しだと思っています。

母校の伝統を支えてくださる同窓会の活動は、私を含め、多くの卒業生の人生に大きな影響を与えています。これからも研修や奨学金などの事業を通して、後輩たちが未来への一歩を踏み出せるよう力強く後押ししていきます。ただ、心から願っております。そして、私自身もその一助となるよう、教育の現場から母校と後輩たちを応援し続けてまいります。

六九期生の吉村謙吾と申します。私は大学時代まで鹿児島で過ごし、現在は都内の「企業にて、スタートアップから大手企業まで幅広い業界向けにサービスを提案しております」。

私が国内派遣事業に参加したのは、2010年のことでした。当時、この事業に参加を希望した背景には、自身の進路を検討するうえで、多様な世界に触れ、見識を広げたいという思いがありました。

高校3年生の夏という、まさに人生の重要な選択を迫られる時期に、本事業へ参加できたことは、現在の私の礎となる貴重な経験となりました。

派遣期間中は都内の大学を巡る機会をいただき、また、卒業生の先輩方が活躍する職場を訪問するなど、普段の生活では得難い経験を積むことができました。

キャンパス間の移動中には大学生の先輩方から、職場見学の際には社会人の先輩方から、直

接お話を伺う機会にも恵まれました。

先輩方がどのような視点で進路を選び、どのような考えをもって働いているのかを知ることができたことは、高校在学時の進路選択にとどまらず、大学生活の過ごし方や就職活動にも大きく影響を与えたと感じています。

もし私が国内派遣事業に参加していなかったら、そもそも鹿児島を離れるという選択肢が生まれなかったのではないかと考えています。

このような貴重な経験ができたのも、ひとえに同窓会の皆さまや先生方のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

本事業への参加を通じて、誇張抜きに、私の価値観や考え方は大きく変わりました。



吉村謙吾さん(69期)

国内派遣に参加し
人生の選択肢の幅が
広がりました

国内派遣事業

龍門の襷

○ 記念行事 並びに 記念事業

Ⅰ. 記念行事

- (1) 記念式典：令和9年11月13日（土）亡師亡友慰霊祭・記念講演会
- (2) 記念龍門祭：体育祭・文化祭（9月）
- (3) 記念龍門講座（11月12日（金））
- (4) 記念遠行（11月）

2. 記念事業

(1) 育英事業の拡充

- ① 海外短期留学費用の旅費補助
- ② 国内短期研修費用の旅費補助
- ③ 奨学金・教育活動等の拡充

(2) 記念誌(会報誌特別号)発行

○ 募金計画

1. 募金目標額 8,000万円

2. 使途

- (1) 海外短期留学費用の旅費補助
- (2) 国内短期研修費用の旅費補助
- (3) 奨学金・教育活動等の拡充
- (4) 記念誌(会報誌特別号)発行

3. 募金要領

- (1) 金 額（なるべく多くの御寄付をお願いします）
- (2) 募金期間 令和7年12月1日から令和9年12月末日まで
- (3) 送金方法 ゆうちょ振込・カード決済・バーコード支払い



130周年記念
特設ページ

※ 送金される場合は、卒業年（例・昭和30年3月卒業）を必ずご記入下さい。

鹿児島県立加治木高等学校創立130周年記念事業実行委員会

委員長	末 永 豊 邦	(同窓会長	高12期)
副委員長	城 由美子	(PTA会長)	
	宇 都 尚 美	(学校長	高36期)
顧問	長 野 芳 幸	(前同窓会長	高4期)
	池 上 俊	(元本校校長	高4期)
	森 永 忠 秋	(元本校校長	高26期)

鹿児島県立加治木高等学校同窓会

〒899-5214

鹿児島県姶良市加治木町仮屋町211番地

TEL:0995-63-2052(高校)

FAX:0995-63-3965

jimukyoku@kajiki-dousoukai.org

<https://kajiki-dousoukai.org/>